

景観文化財学

考古学(遺跡)

No.	書名 / 論題	編著者	資料の解説 / コメント
1	文化財保存70年の歴史：明日への文化遺産	文化財保存全国協議会編	特に遺跡に焦点をあて、戦後70年にわたる保存運動のあゆみを総括し、今後を展望します。
2	遺跡保存の事典 新版	文化財保存全国協議会編	埋蔵文化財＝遺跡は発掘報道で知られますが、実は殆どが破壊されています。人類の遺産である遺跡をいかに保存するかを考えます。
3	考古学で現代を見る	田中琢著	エッセイ集。発掘で何が分かるのか、考古学とナショナリズムの関係など、考古学と現代社会の関わりを浮き彫りにする。
4	発掘を科学する	田中琢、佐原真編	今日、考古学研究ではさまざまな科学的手法が応用されています。遺跡・遺物の科学研究成果を平易に紹介。
5	考古学と化学をむすぶ	馬淵久夫、富永健編	理化学的手法を考古学に応用して得られる数々の成果。年代、産地、食性など、考古学と化学の共同研究を紹介。
6	水の中からよみがえる歴史：水中考古学最前線：文化交流展特別展示	九州国立博物館編	水中に眠る、水中文化遺産。日本列島の代表的な事例から、歴史を復元した展示の記録。
7	海洋考古学入門：方法と実践	木村淳、小野林太郎、丸山真史編著	海をめぐる考古学研究を総覧。水中遺産・沈没船から、島嶼・海民や海産物利用まで、考古学から復元する海と人。類書に『水中文化遺産：海から蘇る歴史』
8	文明に抗した弥生の人びと	寺前直人著	日本列島の人類が大陸文化を受容したのが弥生時代。縄文・弥生の移行過程を新たな視点で考察しています。
9	初期農耕活動と近畿の弥生社会	森岡秀人、古代学協会編	人間社会の発達過程を、農耕という生業を軸に、近畿の事例から総括的にまとめた本。原始古代研究の現状がよく分かります。
10	骨ものがたり：環境考古学研究室のお仕事	奈良文化財研究所飛鳥資料館、埋蔵文化財センター環境考古学研究室執筆・編集	考古学では動植物や地形・地層から過去の生活環境を復元する環境考古学も重要な分野です。動物骨の研究現場を紹介。
11	地下の正倉院展：10年のあゆみ：10周年記念	国立文化財機構奈良文化財研究所編	木簡は日本古代史の解明に大きな役割を果たしてきました。出土木簡を保存し研究する価値を伝える記録。
12	戦争遺跡は語る	戦争遺跡保存全国ネットワーク編	近代の戦争を語る証拠、戦争遺跡。保存を通じて見えてくる、人類の戦争と平和への尊い教訓について考えます。
13	よみがえる百舌鳥古墳群：失われた古墳群の実像に迫る	宮川渉著	百舌鳥古墳群の遺跡としての価値、地域における位置づけを丁寧に紹介。世界遺産とも、陵墓とも異なる視座を、あなたに。
14	古市古墳群をあるく：巨大古墳・全案内	久世仁士著	「百舌鳥古墳群をあるく」の姉妹編。国内第2位の規模の誉田山古墳ほか、古市古墳群の全古墳を探訪し、河内飛鳥の遺跡を考えます。
15	百舌鳥古墳群をあるく：巨大古墳・全案内	久世仁士著	古墳は人気の高い遺跡です。巨大な大山古墳をはじめ、百舌鳥古墳群の現存するすべての古墳を案内。
16	世界遺産と天皇陵古墳を問う	今尾文昭、高木博志編	百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録の活動が広がるが、肝心の古墳の呼び方は、関係者により違うのは何故か？天皇陵の諸問題を広く問いつける
17	天皇陵古墳を歩く	今尾文昭著	天皇陵古墳とは何か。古墳時代の支配体制解明に欠かせない「天皇陵」をたずね歩いて考えます。

18	「陵墓」を考える：陵墓公開運動の30年	「陵墓限定公開」30周年記念シンポジウム実行委員会編	多くの古墳が陵墓として立ち入りすら厳禁されています。戦後の公開要求運動から、天皇陵をめぐる問題をまとめます。
19	陵墓と文化財の近代	高木博志著	古墳は天皇制の下で一部が陵墓に指定され、文化財保護と切り離されてきた。文化財が近代にどう扱われたかの歴史。
20	天皇陵の解明：閉ざされた「陵墓」古墳	今井堯著	古代国家形成解明の鍵をにぎる、巨大古墳の多くは天皇陵で、研究者すら立ち入れません。「陵墓」古墳の実像を明らかにします。類書に『天皇陵古墳への招待』
21	「陵墓」からみた日本史	日本史研究会、京都民科歴史部会編	時代は「陵墓」とどう向き合ってきたか。古代から現在まで、忘れられたり、修復された「陵墓」の歴史を通して天皇制を見つめます。類書に『歴史のなかの天皇陵』
22	天皇陵と近代：地域の中の天友皇子伝説	宮間純一著	大友皇子の墓は明治期に定められますが、滋賀県・千葉県で治定運動の長い対立がありました。天皇陵と地域の関わりを近代に読み解く。
23	近代古墳保存行政の研究	尾谷雅比古著	近代日本で古墳を行政がどう取り扱ってきたか。国家理念や施策を背景とした、文化財行政の変遷をあとづける。
24	歴史保存と伊場遺跡	椎名慎太郎、遠江考古学研究會編	一度なされた文化財指定を取り消し、開発に供された唯一の文化財、伊場遺跡。その経過を振り返って、歴史保存の重要性を問う。『遺跡が消える：研究と保存運動の現場から』は同種の事例をまとめる。
25	古代地方木簡のバイオニア：伊場遺跡	鈴木敏則著	伊場遺跡は、地方ではじめて100点を超す木簡が出土した遺跡。調査成果から、律令制下の地方社会に迫ります。
26	難波宮跡の保存と裁判	難波宮跡訴訟記録保存會編	大阪の都市開発から古代の難波宮跡が保存されるまでの動きを、特に裁判に重点を置いて整理しています。
27	吉野ヶ里：遺跡はこうして残った	山崎義次著	地域にとって貴重な遺跡が、ある日、跡形もなく無くなっている時がある。消滅の危機が幾度もあった吉野ヶ里遺跡の保存の記憶。
28	吉野ヶ里遺跡：保存と活用への道	納富敏雄著	九州を代表する弥生遺跡、吉野ヶ里遺跡の保存、整備と地域活性化の流れをたどります。
29	煩悶する若き考古技師：高度経済成長期・埋蔵文化財行政の苦悩と池上曾根遺跡―ウラの遺跡保存運動	秋山浩三、井藤徹、池上曾根遺跡史研究会編著	大阪平野の弥生時代遺跡として著名な池上曾根遺跡。高度経済成長期に発見され、保存されるまでの困難な過程を記録する。
30	開発と考古学：市ヶ尾横穴群・三殿台遺跡・稲荷前古墳群の時代	田中義昭著	戦後日本の都市開発が考古学にもたらしたのは何だったのか。戦後開発と遺跡破壊の歴史を振り返る体験談。
31	遺跡保護行政とその担い手	須田英一著	近現代に遺跡保護に携わった人々をとりあげ、地域社会や文化財政策の歴史と絡めて紹介し、遺跡保護の有り様について考えます。
32	遺跡保護の制度と行政	和田勝彦著	文化庁で行政実務に携わった著者が、遺跡保護行政の歴史と制度、法解釈を詳しく解説。実務にも役立つ。
33	考古学のための法律	久末弥生著	遺跡の発掘や遺物の取り扱いに関する事項を平易に解説。さらに活用や諸外国の法律との対比をしています。
34	歴史を保存する	椎名慎太郎著	地域の歴史をどう守り伝えるか。時代の変化や開発の流れに押され、現場で模索する姿から、文化遺産の保存を考える。類書に『遺跡保存を考える』
35	史跡保存の軌跡：その苦闘の記録	平野邦雄著	文化庁で直面した史跡破壊をめぐる事例から、史跡の理念と学問の責任を明らかにし、史跡保存に指針を示す。
36	激動の埋蔵文化財行政	高橋一夫、岸本雅敏、佐久間豊編	行政が社会経済の影響を受け、遺跡保存の根本が揺らいでいる。様々な立場から文化財行政の一端を追っています。
37	文化遺産の危機と保存運動	文化財保存全国協議会編	遺跡など文化遺産が、高度経済成長の陰で破壊されてきた状況を訴え、保存運動の重要性を語ります。

38	市民による文化財保護を：松田のおばさん奮闘記	松田常子著	滋賀で長年、文化遺産の保護運動に携わった松田さんの活動をまとめう。市民のための保存活用実践記です。
39	市民参加型調査が文化を変える：野尻湖発掘の文化資源学的考察	土屋正臣著	長野県野尻湖の市民参加型発掘調査を事例に、市民の学び・知的探究と、地域に密着したフィールドワークが、共同して文化遺産の保全を導いてきた過程を丁寧に復元。
40	日本とフランスの遺跡保護：考古学と法・行政・市民運動	稲田孝司著	日本とフランスの考古学事情を、法律、行政、市民活動について対比的に見ながら、遺跡保護のあり方を考察する。
41	発掘調査のてびき	文化庁文化財部記念物課編	遺跡を地中から掘り出す技術・知識とは。発掘調査、整理、報告書作成までのノウハウを解説。集落遺跡発掘編、整理・報告書編、各種遺跡調査編
42	日本の史跡：保護の制度と行政	仲野浩編	文化財保護法に基づいた行政的な実施プロセス、事例と課題を取りあげ、史跡のあり方を具体的に示しています。
43	精説文化財保護法	椎名慎太郎著	1975年に現在の形を整えた文化財保護法の内容を、現場での適用を念頭に精緻に解説しています。
44	埋蔵文化財白書	日本考古学協会編	日本における遺跡＝埋蔵文化財の開発にともなう破壊、緊急調査、保存、活用といった取り組みの実態と課題をまとめています。
45	江戸東京の下町と考古学：地域考古学のすすめ	谷口榮著	古代大島郷として知られる葛飾柴又など、東京下町地域の特徴を、考古学の成果から描き出します。考古学と地域の関わり方の一例。
46	装飾古墳と海の交流：虎塚古墳・十五郎穴横穴墓群	稲田健一著	壁画古墳は九州を中心に分布する。赤彩の装飾壁画古墳がなぜ東日本に築かれたのか、海域交流も交え検討します。
47	沖縄戦の発掘：沖縄陸軍病院南風原壕群	池田榮史著	激戦となった第二次世界大戦における沖縄戦。戦跡である南風原壕群を考古学調査の成果も踏まえて紹介。
48	アフロ・ユーラシアの考古植物学	庄田慎矢編著・訳	植物、民族、実験。多様な方法で探る農耕や栽培化についての考古学研究最前線を紹介。
49	考古学ガイドブック：ビジュアル版	小野昭著	日本の時代や地域ごとの概観ではありません。考古学とはどんな学問か、現代社会と考古学の関係を解きます。
50	日本の考古：ガイドブック	東京国立博物館編集	日本考古学の概要を、時代順に歴史時代までコンパクトにまとめています。
51	古代ギリシャ：時空を超えた旅：特別展	東京国立博物館「ほか」編	ギリシャを新石器時代からローマ時代まで概観する。西欧先史・古典考古学をうかがえる解説と資料集。
52	酸素同位体比年輪年代法 先史・古代の暦年と天候を編む	中塚武著	出土木材を年代測定し、暦年代や過去の気候変動の復元を行う酸素同位体比年輪年代法について、基礎と事例を解説しています。
53	文化財としての「陵墓」と世界遺産：「陵墓限定公開」40周年記念シンポジウム	「陵墓限定公開」40周年記念シンポジウム実行委員会編	百舌鳥・古市古墳群は世界遺産だが、ほとんどが「陵墓」のため公開されていない。文化財としての「陵墓」をどう保存、整備し、公開へ向けてゆくかを考える。
54	実践埋蔵文化財と考古学：発掘調査から考える	水ノ江和同著	遺跡の調査は、さまざまな目的や手法で行われています。発掘調査の意義や意味を、多角的に紹介します。
55	日本の考古学：ドイツで開催された「曙光の時代」展	奈良文化財研究所監修	旧石器時代から古代までの日本列島を考古学的に描き出す。
56	環境考古学入門	ジョン・G. エヴァンズ著；加藤晋平訳	環境考古学を体系的に語る、随一の理論的入門。大地からどのような情報を考古学者が得るべきかを示す。
57	動物の考古学	ジェイムズ・ラッカム著；本郷一美訳	人間の食生活等を復元する動物考古学について、分かり易く解説。

58	聖書考古学：遺跡が語る史実	長谷川修一著	古代イスラエルとは。聖書の記述と考古学的事実から検証し、地域の古の姿を明らかにします。
59	入門埋蔵文化財と考古学	水ノ江和同tyo	遺跡の調査や保存、取り扱いなど、法制度や行政の業務を踏まえて紹介。
60	農耕のはじまり	設楽博己編	弥生時代における農耕の始まりを、最新成果から考察。下巻あり。
61	社会進化の比較考古学：都市・権力・国家	北條芳隆、小茄子川歩、有松唯編	ユーラシア大陸や南米の比較から、都市と国家の発達について考察する。
62	元軍船の発見：鷹島海底遺跡	中田敦之、池田榮史著	長崎県の海底に眠る、鎌倉時代の元の船団。水中考古学で明らかにされた実像を伝える。
63	地中海の水中文化遺産	中西裕見子、片桐千亜紀著	世界の考古学研究を伝えるシリーズ。地中海の水中に眠る遺跡・遺物の調査模様と、地中海をめぐる原始からの人間活動を俯瞰。
64	考古学講義	北條芳隆編	旧石器から古墳時代までの近年の最新研究をレビュー。農耕、祭祀、騎馬民族論など多彩なテーマを追う。
65	ここが変わる！日本の考古学：先史・古代史研究の最前線	藤尾慎一郎、松木武彦編	弥生時代の年代研究など、近年の考古学研究で明らかになってきた先史古代の様子を分かり易く解説。
66	日本考古学・最前線	日本考古学協会編	日本人が取り組む、列島や外国の考古学について概略をまとめる。考古学研究の俯瞰に最適。
67	入門歴史時代の考古学	近江俊秀著	飛鳥時代以降のいわゆる歴史時代。考古資料からアプローチする方法を具体的に紹介。
68	摂津・播磨	檀本誠一、岸本一宏、大手前大学史学研究所編	兵庫県の近年の考古学的成果をまとめる企画。摂津、播磨をおさめる。
69	但馬・丹波・淡路	檀本誠一、岸本一宏、大手前大学史学研究所編	兵庫県の近年の考古学的成果をまとめる企画。但馬、丹波、淡路をおさめる。
70	考古学の研究法	一瀬和夫著	考古学とは、どのような研究をおこなうのか。型式などの基礎から解釈方法までを解説。
71	化石が語る サルの進化・ヒトの誕生	高井 正成、中務 真人著	ヒトはどのように進化してきたのか。化石人骨の発掘調査なども交えながら解説。
72	入門欧米考古学	富岡直人著	欧米各地の考古学と、ポスト・プロセス、認知考古学、ジェンダー考古学といった研究理論の動向を紹介。
73	世界のとんぼ玉	谷一尚、工藤吉郎著	古代エジプトをはじめ世界で見られるトンボ玉の歴史と造形の特徴を紹介する。
74	日本海を望む「倭の国邑」：妻木晩田遺跡	濱田竜彦著	弥生時代の日本海側に栄えた遺跡の全体像を紹介する。
75	南関東・弥生時代のムラの姿：大塚・歳勝土遺跡	高橋健著	横浜市域の開発と遺跡調査の歴史をふり振り返りながら、ニュータウン開発で発見された、関東弥生時代の集落の全体像を紹介する。
76	中世都市・博多を掘る	大庭康時 [ほか] 編	中世の多くの遺構と遺物の発見で注目を集めてきた博多遺跡群。調査・研究成果をビジュアルにまとめる
77	ヨーロッパ文明の黎明	ヴィア・ゴードン・チャイルド著；近藤義郎、下垣仁志訳	チャイルドがヨーロッパ文明の歴史を考古学的に解き明かした代表作、待たれた邦訳。